

平成25年度
専門学校静岡電子情報カレッジ27期生
静岡福祉医療専門学校15期生

の学生諸君

Congratulations on Your Graduation! !

理事長・校長 中村 徹



平成25年度卒業生の皆さんおめでとうございます。

皆さんの専門学校生活はいかがでしたか？皆さんは専門学校教育に、産業界や医療・福祉界、幼児教育界等の第一線の各業界人の指導も受け、産学連携で実践的職業教育プログラムにより育成されたスペシャリストとして社会へ旅立つところまできたのです。これからはしっかりと社会的責任を持ち、社会的評価を得ながら、プロとしてその道の達人を目指すのです。

さて、皆さんが旅立つこの現代社会は、一昨年の3月11日14時46分に発生した東日本大震災で1.5万人強の方が逝去され、いまだ2633人の方が行方不明と3年が経った現在でも27万人弱の方々が避難を強いられているのです。

大震災は被災地の日常生活を喪失させただけでなく、既存の社会システムの機能不全を露呈したのです。

私たちは今、改めて自らの原点から考え直すことを迫られている。皆さんも様々な思いをもち、それぞれの体験を経て今日の目を迎えていることと思う。この悲劇的な惨禍を体験して生き延びることができた私たちは、本学園の創設者の教えにもある「**生かされていることの意味**」を自らに問いかけながら、「今の困難」を乗り越え、「より良き未来」を創造していくことで、復興、そして日本再生に向けて、力を注ぐ義務があるのです。特に、可能性を秘めた若き皆さんには、今後、人間は自然の脅威にどのように向き合い、復興・再生にどのように寄与していくのか、そして困難なこの時代にそれぞれが自覚的に何をしていくのかが問いかけられているのです。

この現代社会が、国内的にも国際的にも大きな試練の時期に入っていることは、皆さんも感じているし、よく耳にすることと思う。国内を見ると、大震災からの復興、エネルギー不足への対処、少子高齢化のもとで人口減少に超高齢化、国の力といわれる生産年齢人口の減少、社会保障の抜本的改革、TPPの対応など、切羽詰まった真剣勝負が求められているのです。

皆さんはこれまでの学校生活で、様々なことを学びつつ研究を行うことで、考えを深めるとともに、その考え方にも、解決のプロセスにも多様性があることを学んで来たのです。

今、我々が人々のためになる行動がとれるようになるには何が必要なのか？それは『**他人の視点でモノを見て、モノを考える**』ということなのです。それにより我々は自分自身をもっと知ることができると同時に、他人との連帯を築き上げ、社会的課題を解決することができるようになるのです。

そして、より重要なのは、一人ひとりの視点がどれが正しいかを決めることではなく、自分とは異なる他人の視点を認めるという「**多様性の価値観を共有すること**」なのです。

次に、安倍政権の掲げる「アベノミクス」の始動から1年が経ち為替相場は円安、輸出関連企業の業績は大幅に回復しました。また、日経平均株価の上昇率は5割を超え、この株高の背景には、稼ぐ力を回復した日本企業への評価とも言えます。しかしながら、円安に伴う原材料の割高傾向や消費税増税を控え、中小企業の経営者や我々消費者にとって、経済政策の波及効果や景気の回復を1日も早く実感できるのを期待するところである。

この経済観に続くべく、本学就職活動においては、福祉はあと1名で就職内定率100%と創立以来15年間完全就職実績を継承しそうである。電子は未内定者があと数名いるが、創立以来27年間続いた就職決定率100%を目指し、最後まで諦めずに学校あげて頑張ろう！！

そして、学生生活の集大成：「建学の精神」の具現化となった「卒業研究発表会」・「ケアスタディ発表会」において、「時代に即した、将来に向けた研究テーマ」での立派なプレゼン、ドキュメントに来賓だけでなく教職員も感動した。今年も大成功であった。

その上、昨年に引き続き電子ゲームチーム(2IS、2MS、1IS3名)が平成25年度文部科学省中核人材育成の戦略的推進事業「ゲーム分野産学連携型中核人材養成推進プロジェクト『GCS2014』(スクエアエニックス、カプコン、マイクロソフトやGree等の一流ゲーム企業も参加)にエントリーして、このハイレベルなコンテストの中で見事3位に値する**Gree(株)企業賞**を受賞(2年連続)。

本学のもう一つの教育目標である『地域に開かれた専門学校』の活動として、福祉医療では病院・福祉等の「ボランティア」、「レクリエーション」等の活動において、今年も地域の方々との触れ合いを通して高い評価をいただいた。

これらの成果は、来年度、後輩たちが継承し、より高めてくれるものと確信している。

また、運動部の対外成績では女子バレーボール部が静岡県専門学校大会でリベンジならずの**準優勝**。学校行事においては、学生会が中心となり友人の和を広げ、友情を深めることのできた「スポーツ大会」・「我道祭(文化・学園祭)」、「海外研修・修学旅行」はアメリカで電子は西海岸シリコンバレー、福祉はハワイで最先端テクノロジーと異文化に触れ、国際的視点に立っての有意義な研修を積むことができ、貴重な体験をさせていただいた。

I was born. Keep alive. 「人は、生まれ、生かされている」、「人は誰もが、無限の可能性を秘めている」ゆえに「日本人としてのアイデンティティを持ち、仕事を通して自己実現を図る」と職業教育を熱い心で教え、「人づくり60年」の生涯教育者であった本学園創設者中村忠雄学園長先生の教えを卒業後の社会生活の中でも活かし、「**りっぱな日本人**」になっていただきたい。

これから社会に出ても、常に何事に対しても、日々「**前向きな気持ち**」を忘れずに、「**試行錯誤**」の中から「**自己実現**」を図り、「**これだけの事をやったんだ**」という「**自信**」と「**誇り**」を持って、君たちの時代を築いてください。

そして、たまには学校に寄って元気な顔を見せて下さい。近況報告を楽しみに待っております。

それでは、健康には十分留意され、

Bon Voyage !

君たちの新たな旅立ちに、心より幸多きことを祈る！



副校長 中村 和彦

みなさん卒業おめでとう。4月からは新社会人として、それぞれの職場に巣立って行くわけですが、学生の時とは違い、「働く」ことによって社会的責任を果たさなくてはなりません。積極的に立ち向かえば、早く仕事や職場にも慣れることが出来るでしょう。そして、どんな仕事でもできるだけ楽しくできるように工夫してみてください。それにより仕事にやり甲斐が生まれ、人生の生き甲斐も生まれるもの。又、職場にとってなくてはならない人材となり、立派に社会人としての義務も果たすことができるはずですよ。

会うは別れの何とやら、惜別の情一入(ひとしお)だよ。今度会う時には、社会人として対等な立場で酒でも飲みながら話したいものです。



教頭・教育部長 有賀 浩

卒業おめでとう！世の中の何もかもがネット中心となり、それがグローバル化を急速に進めてきました。そして、インターネットユーザー数は20億人を遙かに超え、各種SNSユーザー数も数億人を数え、トラフィック量も日頃使う単位では表しきれないほどです。バックボーンは更に高速化を目指し、ユーザー一人が何台もの端末を駆使して、ビジネスばかりでなく日常生活で活用するのが当たり前になりました。

そんなネット社会でプロフェッショナルとしての人生を歩み始める卒業生の皆さんですが、何も恐れることはありません。本学の「**全人教育**」を通して身につけた、元気よく笑顔で心から湧き出す「**挨拶**」で、きっと明るい未来を築くことができるでしょう。

いつまでも夢を失わず、確かな信念と技術を人生の軸とし、校訓「**技術は力なり、我は我が道を行く**」、仕事を通して常に自己を成長させて行って下さい。

最後に、中村忠雄学園長先生が残して下さった「**檄**」の一節を、卒業生の皆さんに贈ります。 ”**「仕事は我々の人生」だ、「人生は仕事」だ!**”

進路室長 大原 利作

卒業おめでとう。4月からは新社会人として、それぞれの職場で活躍されるわけですが、仕事をするうえで大切にしたいのは「人様から信頼を得る」です。そのためには、約束を守る、裏切らない、礼儀を知る、物事を迅速、正確に処理することが重要です。あの人には気を許すことができないと言われるようでは、信頼は得られません。粗暴な言辞、荒っぽい動作では、これまた信頼は得られません。頼まれた仕事を催促されるようでは、やはり信頼は得られません。どんなに才能や手腕があっても、平凡なことを忠実に実行できないような人は信頼されません。

皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。



事務局長 橋野 幸男

FCバルセロナ（スペイン）で選手・指揮官として活躍したJ.グアルディオラの言葉を紹介します（A. マルティン『大切なことはみんなピッチで教わった ～名将グアルディオラ 58の教え～』から）
「私の仕事をこなせる人間は、ほかにたくさんいると思う。この自分を選んでもらったことが、私の唯一の手柄だ。」

「いちばんためになった“教材”は、ほかでもないスポーツだ。敗北を受け入れ、相手のほうが優秀だと認め、失敗のあとに立ちあがり、もっと上手になろうと努力し、仲間にも負けることも、監督にベンチにいらと言われることも、私は学んだ。… スポーツを見ること、することによって、私はすべてを教えられた。」

謙虚さ、揺るぎない「自分の軸」、類い稀な一途さゆえに、現在も欧州サッカー界で輝き続ける人物の言葉です。

経済社会の変化が従来以上に複雑化し加速する今日、皆さんがこれから向かう道は平坦でも真っ直ぐなものでもないでしょう。本学で歩み始めた「自己実現」の人生を、今後取り組むこと・出会うことのすべてを“教材”として、更に前進されることを期待しています。

☆各クラス担任の先生方より

医療情報システム学科 3年担任 齋藤 秀樹

「桃栗3年、柿8年、梅は酸くとも13年。」

実をつけるために必要な期間はそれぞれ異なります。必要であれば、必要なだけの努力をすれば良い。『我は、我が道を行く』その気概を持ち、『その日その瞬間を精一杯』頑張る、自分自身の大きな実を育ててください。

実社会での活躍を期待しています。卒業おめでとうございます。

ICT情報システム学科・ICT情報デザイン学科

2年担任 鈴木 正章

2 I S ・ I D 諸君、卒業本当におめでとう。

これから社会へ旅立つ皆さんに、エジソンの話をします。エジソンは、電球を発明するために、6000種類の材料を試したそうです。何と京都の八幡村にある「竹」が答えだったそうです。目標達成に向けて情熱を持って取り組む事。少々の失敗ですぐにあきらめないことが大切だという事を教えてください。これからの人生で荒波にのまれる事もあるでしょう。でも、常に前を向き、全力に事にぶつかれば、必ず成功します。自分を信じて未来を切り拓こう！！



テクニカル研究科 担任 早崎 賢治

スイスの哲学者・詩人アミエルの言葉「他の人を幸福にすることは、やはりいちばん確かな幸福である」を贈ります。

社会に出ると人間関係で問題を抱えることが増えると思います。そんな時、自分の立場を良くすることだけを考えて行動すると、返って周りからの信頼を失いかねません。思いやりや親切心を持って周りの人に接してみてください。周りに貢献すること、与えることが自分自身にとってとても満足感が得られる行為であることを知っている人は幸福です。

みなさんが幸せな未来を掴み取ってくれることを心から祈っています。



総合福祉学科 3年担任 磯野 博

3年総合福祉学科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、勉強に、実習に、そして地域活動にと奮闘されました。卒業時共通試験も、今年度はついに平均点が120点満点で100点を越えました。大したものです。これらの成果を自信として、どうか胸を張って社会に巣立って行ってください。

一方、現在の日本はいまだ混迷の最中にあります。東京オリンピック招致という明るい話題もありましたが、東日本大震災の復興、とりわけ福島復興には見通しが着かない状況です。福祉・介護分野も、社会的ニーズは高いものの、度重なる制度改革に振り回され、専門職としての待遇にも引きつづき課題は多いです。

今の時代に皆さんを送り出すことは心が痛む思いです。しかし、このような北風の吹きすさむ中であるからこそ、皆さんが学んだ福祉・介護の専門性は社会に暖かな南風を吹き込むのです。「建学の精神」にある「パイオニアの精神」を持って時代に挑戦して下さい！

とはいえ、ちょっとつまづいたり、癒しが必要な時は学校に寄って下さい。「母校とは母港」、皆さんには帰るべきところがひとつ増えたのですから…。皆さんのご活躍を確信しております。

介護福祉学科 2年担任 花澤 つばさ

皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、私にとって初めて送り出す卒業生です。1年生の頃は常に「挨拶」「相手のことを考える」「周りに迷惑をかけない」と言っていたように思います。2年生になってからは、私が何も言わなくても友達と協力し、たくさんのお話を乗り越えてきてくれました。そんな皆さんに私自身も成長させてもらえたように思います。初めて受けもつクラスが、皆さんで本当に楽しかったです。卒業してからも、楽しむときは楽しむ！！やる時はやれッッ！！仲間を大切に、思いやりをもち社会人として成長し続けてください。皆さんの益々の成長を応援しています。



子ども心理学科 3年担任 後藤 明子

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。新入生オリエンテーションの時は、これから迎える本学での学校生活に期待と不安を感じていたことが、昨日のこのように感じられるのではないのでしょうか。それから皆さんは何を学ぶことが出来たのでしょうか。学業にせよ、スポーツにせよ、友情であるにせよ、皆さんは本学で何かを得ることが出来たはずであり、それを頭に浮かべることが出来ますか？ぜひ、在学中のことを振り返り、この学び舎で得たことを自分で認識し、糧にさせていただきたいと思います。皆さんの幸福を祈っております。



医療情報秘書科 2年担任 畔上 泉

ご卒業おめでとうございます。中村学園での学校生活はどうでしたか？楽しかったこと、嬉しかったこと、辛かったこと、悲しかったこと、いろいろな経験を積み重ねました。それらは確実に、皆さんの心を成長させたことなのでしょう。これから、社会人として別々の道へ進みます。理不尽なことや辛いことがあるかもしれません。それでも、そんな時は、専門学校で出会った仲間のことを思い出してください。皆さんを応援している私たちがいることを忘れないでください。夢の実現に向かい輝いている人であることを心から願っています。

